
















# 開腹・腹腔鏡下腎尿管全摘除術を受けられる

説明医師

様へ

看護師

月日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
経過	入院日	当日（術前）	当日（術後）	術後1日目	術後2日目	術後3～7日目	術後8日目以降	退院日
目標	○心身共に安定した状態で手術を迎えられる		○術後合併症（出血・感染）がない			○感染徴候（発熱や炎症反応の上昇）がない ○退院後の療養上の注意点について理解できる		
検査			適宜採血・レントゲン・膀胱造影検査をおこないます（適宜看護師が説明します） 					
食事	夕食後絶食21時まで水分可 経口補水液は翌朝6時まで可	食事はとれません						
処置・観察	リストバンドを装着します （退院日まで装着します） 下肢の深部静脈血栓症予防のため弾性ストッキングを準備します	シャワー浴をし手術着に着え 弾性ストッキングをはいて下さい 点滴の針を留置します 入れ歯・時計・眼鏡・アクセサリーは外して下さい 時間になれば看護師が手術室へご案内します	酸素投与をおこなうため酸素マスクを装着します 背中に痛み止めの管が入っています（使用方法について説明をします） ※痛みや膀胱刺激症状が強い場合は、Ns コールで申し出てください 尿の管が入っています（約1週間留置します） 手術後は看護師が時間毎に観察に来ます	酸素投与を中止します	創部の状態によっては保護材を交換します 出血がなければ、創部に入っている管を1本抜去します 背中に入っている痛み止めの管を抜きます	術後3日目に創部に入っている残りの管を抜去します 創部の状態が安定していれば術後7日目に抜去します	術後8日目に膀胱造影検査をおこないます ※膀胱縫合部からの尿漏れがないこと確認した後尿の管を抜去します	退院時にリストバンドを外します
注射・内服	いつも服用しているお薬のある方は確認しますので看護師にお渡しください 眼前に下剤を服用します 		持続点滴を行います 抗生剤の点滴をおこないます 	持続点滴を行います 抗生剤の点滴を10時・22時におこないます（22時の点滴終了後抜針します） 	血栓予防のために皮下注射を10時・22時におこないます（術後7日目まで実施します） 			
行動	制限はありません シャワー・洗髪をしてください 	手術室へは歩いていきます 朝（7時頃）シャワー浴をしていただきます 	翌朝までベッド上安静です（下肢静脈血栓予防のためベッド上で下肢を動かしてください） 	医師の許可ができれば、徐々に安静度を拡大します ※最初の歩行時は看護師が付き添います 看護師が体を拭きます 	特に制限はありません 積極的に体を動かすようにしてください 	医師の許可ができれば、創部の保護をしシャワー浴をします 		
説明	医師より説明 治療計画と手術について 		医師より説明 手術の結果について 				看護師より説明 尿の管を抜いた後、最初の尿を看護師が確認するので、破棄せず知らせてください 以降も尿量を計り、シートに記載してください 	医師・看護師より説明 退院後の療養生活について 

- \* 入院に関して心配事がありましたらお申し出ください。
- \* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。また、定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。
- \* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともありますので、予めご承知ください。
- \* 入院に際してこの用紙を必ずお持ちください。

17-C66-1

2019.10.3版  
京都第一赤十字病院